

本時のねらい

物語の全体像をとらえた上で題名について考える。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・前時の復習場面で、デジタル教科書の「マイ黒板」という本文や写真・挿絵などを抜き出して貼り付けたり、付箋に考えを書いたりすることで、自分の考えをまとめることができる機能を活用して、始めから終わりまでのあらすじと、各場面での綾の心情を整理する。それにより視覚的に本文の流れをとらえやすくし、本時の活動に参加しやすくなる。
- ・話し合い場面において、Google Jamboard を活用することによって、児童一人ひとりが円滑に自分の意見を班の児童と共有することができる。
- ・振り返り場面において、アンケート集計用ソフト（Google Forms）を活用することで、授業者がクラス全体の学習状況を把握し、指導に生かす評価として活用でき、また、児童にとっても自分の理解を客観的に評価する一助とする。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Chromebook
- ・電子黒板
- ・デジタル教科書
- ・授業支援ソフト（Google Jamboard）
- ・アンケート集計用ソフト（Google フォーム）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	・前時までの内容を振り返る。 各場面の綾の心情を確かめ、その変化を振り返る。	・デジタル教科書を活用し、場面ごとの心情などを整理しておくことで、児童が本文全体の流れを視覚的に捉えやすくする。
展開 (25分)	・題名について考える。 たずねびとは誰のことなのか考え、ノートに記入する。 ・考えたことを交流する。 自分たちが考えたことをもとに班で交流する。	・班で一つのJamboardのファイルを作成し、一人ひとりの意見を付箋の色を変えるなどで区別できるようにして書き込ませる。 ・Jamboardを活用して話し合い活動を行うことで、児童の考えを共有しやすくする。他の児童の意見を容易に確認できるため、自分の考えと比べたり、出た意見を整理したりしやすくなる。また、席を移動せずに他の児童と意見交流できることもメリットの一つである。
まとめ (10分)	・Google フォームを使って、本時の活動を振り返る。	・Google フォームを活用して振り返りを行うことで、教員が児童の学習到達度を円滑に捉えられる。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：デジタル教科書を利用して物語の概要を整理している場面



写真2：実際に児童が交流を行った時のJamboard



写真3：Google フォームで振り返り活動を行っている様子

児童生徒の反応や変容

- ・これまでの授業の中でJamboardを活用した話し合い活動を繰り返し行っていくうちに、児童も少しずつ慣れていき、上手に話し合い活動を行えるようになってきた。本時では、似ている意見はかためて移動させたり、反対意見は左右で分けて置いたり見やすくなるように自分たちで工夫してレイアウトを考え、話し合いを活発に進めることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・児童一人ひとりが各自でデジタル教科書を使用することで、物語全体を通した心情変化や場面の移り変わりを視覚的に捉えやすくなった。
- ・Google フォームを活用した振り返り活動を行うことでノートやワークシートを使った振り返りと比べて、後日クラス全体で共有したい意見などがあつた場合にすぐにスクリーンに映し出すことができる。また、Google フォームを使うことで全員の意見や回答を瞬時にまとめたり、一覧にしたりすることができるので、授業者がクラス全体の学習到達度を把握することに有効である。